

宮之城中野球部 九州大会で4位

11月6日と7日、宮之城中学校野球部が長崎県で行われた九州少年軟式野球大会に出場しました。10月の県大会で準優勝に輝き出場権を獲得。3年生引退後のチームでベスト4の成績を収めました。キャプテンで2年の西園稟公さんは「各県のチームの良いところをたくさん学ぶことができました。これを糧に、来年の大会にはさらにレベルアップして挑みます」と話しました。



一丸となってベスト4をつかみました

標語とポスターで人権啓発

人権啓発標語・ポスターコンクールに計379点の応募がありました。特選作品はカレンダーで配布します。特選受賞者は次のとおりです。(敬称略)

【標語部門】

- ・中津川小学校1年 柳田 初良
- ・盈進小学校3年 本砥 駿
- ・求名小学校5年 川崎 優真
- ・宮之城中学校3年 桑波田 来未

【ポスター部門】

- ・盈進小学校1年 邦永 希空
- ・盈進小学校2年 下畠田 蓮
- ・流水小学校3年 西井田 壱晟
- ・求名小学校4年 有馬 伶菜
- ・永野小学校5年 川口 心香
- ・佐志小学校6年 高梨 愛宕
- ・宮之城中学校2年 小八重 瑛奈
- ・宮之城中学校2年 寺田 志乃



本番に向け課題のキャビネット製作に励む折尾さん

折尾さん 技能五輪全国大会へ

12月18日と19日に開催される技能五輪全国大会の家具部門に、宮之城高等技術専門学校2年の折尾星砂さんが出場します。佐志地区出身の折尾さんは、同部門の鹿児島県代表として選出。現在は、課題となる木製のキャビネットを制限時間内に正確に完成させる練習をしています。折尾さんは「緊張せず普段の練習の成果を出せるように、金賞を目指して頑張ります」と目標を話しました。



校舎の前で一斉に風船を飛ばし150周年を祝いました

佐志小 150周年を盛大に祝福

11月7日、佐志小学校で150周年記念式典が開催されました。保護者や地域住民、卒業生など約200人が参加。歴史を振り返る動画の上映や校旗の贈呈などが行われました。6年の永野侑さんは「佐志小学校を守ってきた先輩や地域の皆さま。こんなにも素敵な学校にさせていただきありがとうございました。感謝の気持ちを忘れずに、私たちも学校を守っていきます」とあいさつしました。

薩摩切子が県知事賞受賞

11月5日、「かごしまの新特産品コンクール」で薩摩びーどろ工芸株式会社の「薩摩切子『かぐや』」が最高賞となる県知事賞を受賞しました。竹をイメージし、積み重ねがでし器や小物入れなど幅広く使えます。また、株式会社エンジェルカンパニーの「SATSU MA no FRUIT SAUCE」も日本百貨店協会会長賞を受賞しました。



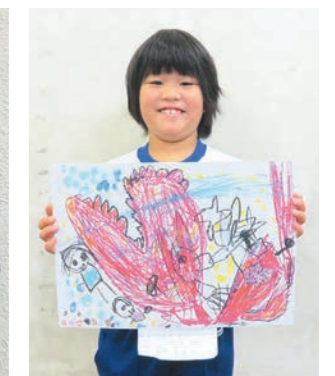
淡い緑色で竹製のフタが付いています

さつま美術展に力作揃う

さつま美術展の審査会が行われました。今回は「さつま町のいいね!」を題材にしたテーマ部門と、自由部門で作品を募集。557点の応募がありました。テーマ部門では、宮之城中学校3年の下田梨華子さんの「神社」、自由部門では、盈進小学校1年の末野美蕾さんの「つよいえび」が最優秀賞に選ばれました。入選以上の作品は12月24日まで役場本庁1階町民ホールに展示されます。



下田さんの「神社」



末野さんの「つよいえび」



黄金色をしたタケノコの出荷を祝いました

超早掘りタケノコを初出荷

10月14日、「さつまたけのこ」の出発式が北さつま農協本所で行われました。同組合管内の生産者から集荷された超早掘りタケノコ8kgが、豊洲市場に向け出発。この時期のタケノコは非常に希少で、関東を中心に出荷され旅館や料亭などで使用されます。北さつま農協たけのこ部会の木下守会長は「品質の向上と管理を徹底し、タケノコの生産拡大に努めたいです」と話しました。



さつまガイドから山崎御飯屋跡の説明を受ける塾生

ふるさと体験塾 山崎の歴史探訪

10月16日、さつまふるさと体験塾の町内探索ウォーキングが山崎地区で開催されました。塾生18人が参加し、同地区にある玄德寺や飯富神社、山崎御飯屋跡に関する歴史をボランティアのさつまガイドから学習。熱心に聞き入る塾生からは「今日のことを社会の授業にも活かしたい」「町内のほかの場所でも歴史探訪をしたい」などの感想がありました。

宝くじ助成で音響などを整備

コミュニティ助成事業は、宝くじの助成金で整備されるもので、本町では毎年、区公民館の備品整備などに対し助成を受けています。今回、船木区公民館が助成を受け、音響設備やテントなどを購入しました。水流新蔵館長は「不足していた備品などの整備ができました。積極的に活用して、公民館活動の一層の充実を図っていきたいです」と話しました。



水流館長と助成を受け整備したテントやホールポスト

鳥インフル防疫対応感謝状の贈呈

10月11日、鹿児島県建設業協会宮之城支部に、鳥インフルエンザ防疫対応への協力に対する感謝状の贈呈が行われました。同支部は、1月12日に本町で鳥インフルエンザが発生した際、家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定を県と結んでいることから、掘削や埋却などの作業にあたり防疫に貢献。今藤豊重家畜防疫対策監から四元大志支部長に感謝状が手渡されました。



防疫に貢献された四元支部長（中央）、山下文人副支部長（中央右）、森哲也事務局長（右）

こんにちは
保健師です

交通事故死の約2倍?! 冬のお風呂は要注意

令和2年の人口動態統計によると、高齢者の浴槽内での不慮の溺死や溺水の死者数は4,724人で、交通事故死者数2,199人の約2倍です。毎年11月から4月にかけて死亡事故が多く発生して

います。急な温度差による血圧の急激な変化により、一時的に脳内に血液が回らない貧血状態になって、意識障害を起こすことがあります。事故を防ぐために次のことを意識しましょう。

出典：政府広報オンライン

冬のお風呂、6つのポイントを知ろう!

1

入浴前に脱衣所や浴室を暖める

浴室の扉を開けてシャワーで浴槽にお湯を張ったり、浴槽のふたを開けておいたり、換気扇を切ることも効果的です。

2

入浴前に家族にひと声掛ける

高齢者の家族は、時々様子を見ましょう。



3

食後すぐや飲酒後の入浴は避ける

食後や飲酒後は血圧が下がり、入浴によりさらに下がります。



4

十分な水分補給

入浴前後はコップ1杯の水を飲むように心掛けましょう。



5

浴槽から急に立ち上がらない

浴槽ではふたを体の前に置いておくと、気を失っても、ふたにもたれかかって助かることがあります。

6

お湯は41℃以下で 浸かる時間は10分が目安

熱いお湯が好きな人は注意しましょう。



お問い合わせ先 保健福祉課 健康増進係（内線2137）



庁舎内の定期消毒などに利用しています

新型コロナ対策で消毒液を寄贈

10月21日、倉内工業団地内にあるフォービステクノ株式会社の親会社である日本フォームサービス株式会社が、除菌スプレー 300mlを30本寄贈しました。同社と防衛医学研究センターとの共同研究から生まれた商品で、健康面や安全面を重視して作られています。代表取締役の齋藤太誉さんは「動植物や自然環境にも優しくウイルスなどの滅菌と消臭にも優れている商品です」と話しました。

2社合同でマットやマスク寄贈

10月19日、株式会社Deaiが靴裏除菌マット1枚、株式会社マエゾノがマット用消毒液1L詰替え12袋、マスク300枚を本町に寄贈しました。

大阪府にある株式会社Deaiは「敷物で日本を綺麗に、世界を綺麗に」のコンセプトで47都道府県寄贈プロジェクトを実施。代表取締役の出合美保さんは「足元からウイルスを持ち込ませない感染症対策ができればと思い製作しました。マットを踏むことで手指消毒や検温を促す相乗効果も生まれれば良いと思います」と話しました。株式会社マエゾノの代表取締役の前園光彦さんは「マスクにはさつまちゃんがプリントされています。感染症対策に活用してほしいです」と話しました。

寄贈された靴裏除菌マットと消毒液は、本庁舎の正面玄関で活用しています。マスクは、本町の転入者に配布し、感染防止対策に役立っています。



ラグビーボールを持つ さつまちゃん



除菌マットを寄贈された出合代表取締役（右）



マスクを手渡す前園代表取締役（右）